

令和2年度 第1回 奈良県がん対策推進協議会 議事概要

日時：令和3年3月22日（月） 18：00～20：00

場所：WEB会議（WEBEX）

出席者：（委員）駒井 壽美、高橋 裕子、辰巳 恵理、辻井 啓之、中島 祥介、
中村 由美、長谷川 正俊、林 良介、南島 正和、山田 全啓、
弓場 祥光

- 令和2年度 of 取組実績及び令和3年度の計画（案）、第4回がん登録情報利用等審議部会結果について報告。
- がん診療連携協議会の取組について奈良県立医科大学附属病院より報告。
- 第3期奈良県がん対策推進計画中間評価について説明。
- AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について情報提供。

議題（1）令和2年度 of 取組実績及び令和3年度の計画（案）について

- 資料1～3により説明（事務局）

（会長）

資料1～3について補足、ご意見等あればお願いします。

（委員）

資料2で喫煙率がほんの少し上昇したように見えているが、奈良県だけでなく全国的にも下げ止まり、そして上昇、という流れになっている。だからこそ手を抜かずにこれからも心して取り組んでいかなければならない。新型コロナウイルス感染症の対応で大変な状況のなか、着実に進めてきていただいたことを感謝する。

（委員）

がん種にもよるが検診受診者数が2から4割くらい減少したという現状や、市町村におけるがん検診では受診者数の制限など、新型コロナウイルス感染症の影響があった旨、がん予防対策推進委員会でも報告された。今後、がん検診を受けないことでがんの発見が遅れ、進行がんで発見されることがないように、住民への啓発や体制整備について検討する必要がある、との意見もあった。

（会長）

ご指摘のとおり、受診控えやがん検診受診控えは、今は目に見えた影響がなくても、1年後、2年後に進行がんとして発見されることが危惧される。現在の状況はどうか。

(委員)

令和2年度のデータはないが、乳・子宮がんに関してはそれほど低下していないと聞いている。しかし、胃・肺・大腸がんに関しては低下していると聞いている。次年度、受診率の集計結果が出たら、はっきりとしたデータで分かる。

○資料4、5により説明(事務局)

(会長)

資料4、5について補足、ご意見等あればお願いします。また、令和2年度は「第3期奈良県がん対策推進計画 目標の進捗状況」の達成度が全体的に低い印象だが、いかがか。

(委員)

病院でも、新型コロナウイルス感染症の発生により検診の中止があった。また、診療では20%近く減少している。また、胸部内視鏡検査においてはかなり制限があった。病院全体として、がん患者への貢献度は10~20%低下したため、後にその影響が出てこないか心配している。

(委員)

薬局では在宅へ訪問し、服薬支援を行うこともあるが、コロナの影響により電話やオンラインでの支援となった。患者の様子を直接把握することができないために影響が出ないか危惧している。

(委員)

コロナ禍で入院すると面会がしにくいため、在宅での看取りを希望する方が多かった印象。また、退院前カンファレンスがなかなか開催できない状況のため思っていたより状態が悪かったケースなどもあり、患者が帰ってきてから困るケースが少しあった。

(会長)

県内の放射線治療においては、コロナの影響により件数は減少傾向。

(委員)

令和2年度から、ハローワーク奈良と奈良県総合医療センターの間で出張就職相談を開始することができた。月2回実施で、令和3年2月までで23回開催、34名の就職相談を行った。ハローワーク大和高田と奈良県立医科大学附属病院での出張就職相談は、4月~5月はコロナの影響により中止としていたが、6月からは再開している。今後も引き続き、相談支援を行っていきたい。

(委員)

患者同士が集まるイベントや患者サロンの開催等は難しいところがあった。しかし、感染予防対策は見えてきたところもあり、アクリル板のパーテーションを設置するなどの対策を講じ、何とか安全に開催できている。今後はピアサポート活動の場が安全に提供できるよう引き続き支援していく。

○資料6～8により説明（事務局）

(会長)

資料6～8について補足、ご意見等あればお願いします。

(会長)

奈良県では、がん登録データを用いて、ロジックモデルをうまく活用して様々な取組を行い、それがだんだんと形に見えてきている。さらにその評価においてロジックモデルを用いて行うことで、がん対策の成果が出ると感じている。

(委員)

がん教育に関して、今年度はコロナの影響により停滞している印象。今年度は、県立高等学校への外部講師派遣を10校程度計画していたが、オンラインで1校のみの実施となった。来年度に関しても、まだ先行きがよく見えないが、先生方にご協力いただき、積極的に進めていきたいと考えている。

(会長)

外部講師を担当している立場だが、今年度は距離を保った状態で1つの教室で講義をし、他の教室ではオンラインで実施した。生徒との対話も可能であり、良い方法であったと感じている。今後はオンラインでの開催も積極的に検討していかなければならないという印象。

議題（2）第4回がん登録情報利用等審議部会 結果報告 について

○資料9により報告（事務局）

(会長)

資料9について補足、ご意見等あればお願いします。

(委員)

がん登録データは非常に有用で活用していかないといけない反面、個人情報特定されるおそれもあるため、部会のなかで慎重な判断を行っている。例えば、資料9、2番目の申出の審議結果に記載のように、公表前の確認を行うことによって、個人情報特定のお

それがないかどうかを判断するプロセスを経るようにしている。引き続き慎重に判断していきたいと考える。

(会長)

議題（１）（２）を通してご意見等あればお願いします。

(委員)

歯科においても、コロナの影響による患者減少はあった。入院中のがん患者への歯科往診等もなかなか行けていない状況。がん患者への口腔ケアは術後等の状態改善に繋がることが分かっている。そのため、がん患者への口腔ケアを推進するため、拠点病院等に啓発ポスター等の配布を検討している。

また、がんネットならにおいても歯科に関して充実させるよう部会等で検討していきたい。

(委員)

がん予防推進委員会ではコロナ禍での啓発方法に関して、がん予防推進員等の協力でPR動画を作成し広く周知されたという事例があった。そのような媒体を予防接種の会場で放映し、健康観察の15～30分程度を過ごしていただいてがん検診受診の啓発に繋げてはどうか、という意見があった。

(委員)

例年、住民向けにイベントを行うなかで、がんの早期発見に関するチラシ等を配布することも出来るため、活用できるものがあれば提供いただきたい。

→ (事務局)

がん検診受診に関するリーフレットを県で作成しているため、ぜひ啓発にご協力いただきたい。

議題（３）がん診療連携協議会の取組について

○資料10により報告（奈良県立医科大学附属病院）

(会長)

資料10についてご意見等あればお願いします。

(委員)

何とかコロナ禍でも、がん患者に不自由をかけないように対応していけそうな雰囲気を感じているところ。特に放射線治療はコロナ禍でも中止することが難しく、病院でも治療は継続していたが、今後も引き続き継続していきたいし、それが可能と考えている。

議題（４）第３期奈良県がん対策推進計画の中間評価について

○資料１１により説明（事務局）

（会長）

ならのがんに関する患者意識調査は、以前から奈良県で実施しており非常に有用なもの。これまでに引き続き拠点病院としても協力したいと思っている。

議題（５）その他について

○資料１２により説明（事務局）

（会長）

特に AYA 世代では妊孕性温存は注目されている。奈良県では、ネットワーク体制がまだ出来ておらず、現在がん診療連携拠点病院協議会の中でネットワーク構築に向けて議論されている。原疾患の治療に関しては拠点病院で対応できる体制ができており、そちらと妊孕性温存を実際に行う施設とのネットワークを早急に構築する予定で進めている。

閉会